

東日本大震災

あれから 10年 被災地の今



目次

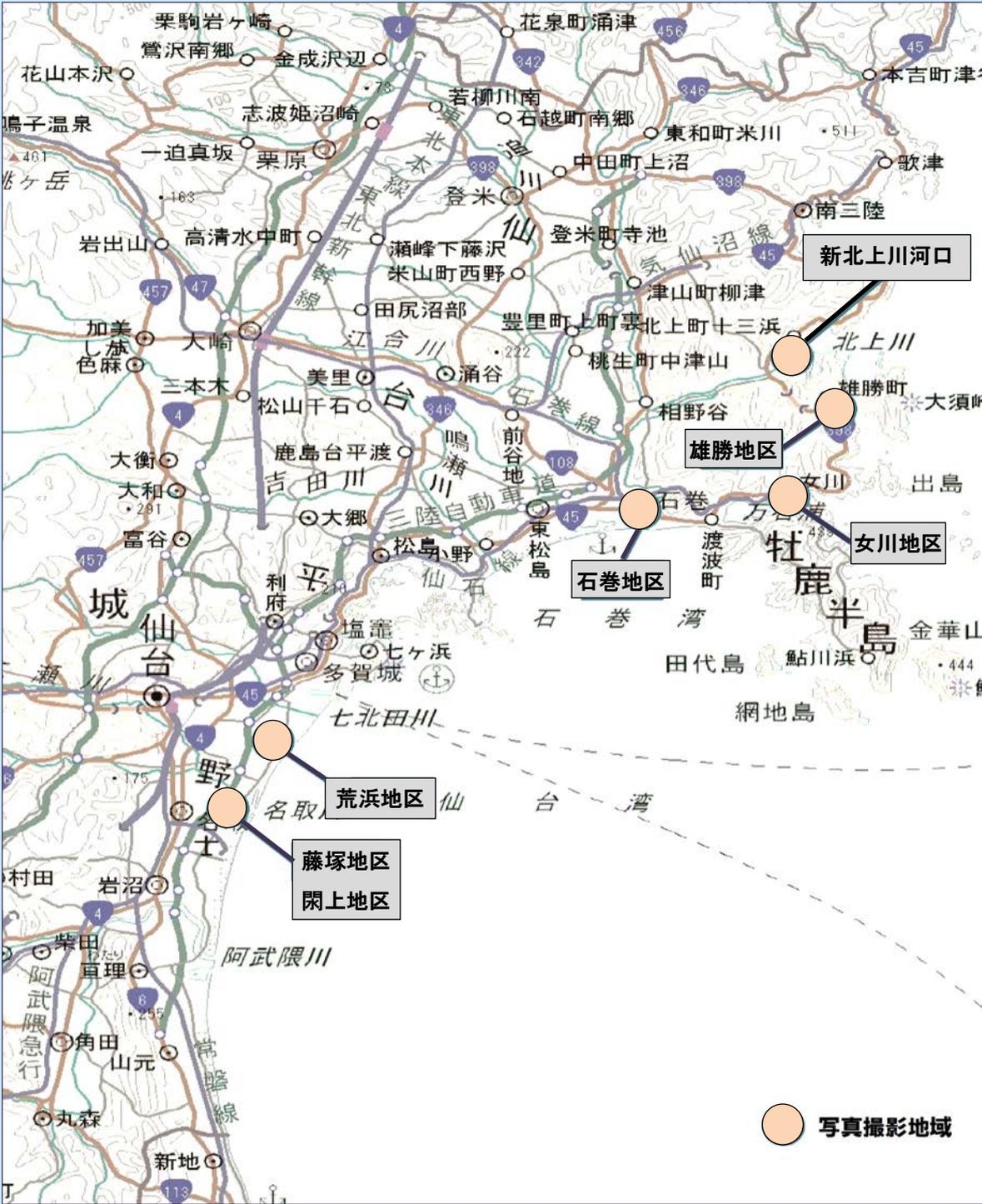


定点写真	1
撮 影 範 囲 _____	2
仙台市若林区藤塚地区 名 取 市 閑 上 地 区 _____	3
仙台市若林区荒浜地区 _____	19
石 卷 地 区 _____	26
新 北 上 川 河 口 _____	40
女 川 ・ 雄 勝 _____	52
復旧・復興への取組み	58
被災地での活動 _____	59
震災関連業務位置図 _____	60
南三陸町 志津川のまちづくり _____	61
復興道路・復興支援道路の早期整備 _____	64
災害関連設計業務 _____	67
減災のための取組み _____	79
編集後記	80



定点写真

撮影範囲(全体)



【国土地理院数値地図をもとに当社が作成】

仙台市若林区藤塚地区 名取市関上地区

～写真撮影位置図～



出典：国土地理院ウェブサイト (<http://maps.gsi.go.jp>)

①

仙台市藤塚地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

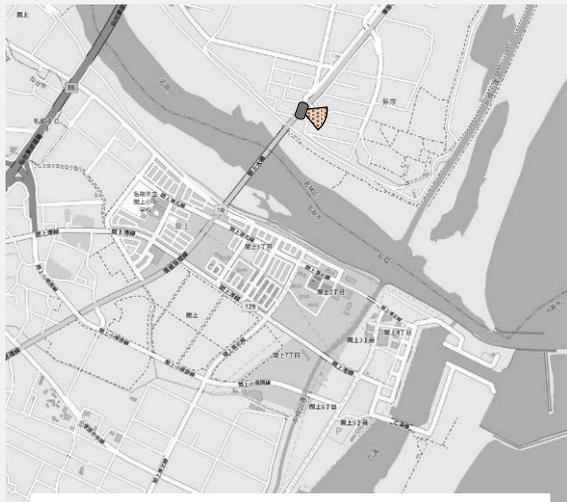
震災直後(H23.3.21) >>

写真奥に見える防潮林まで、見渡す限りガレキが散乱していた。遠くに見える松林が僅かに残ったが、今ではまばらになっている。



<< 10年後(R3.3.10)

1年後にガレキが撤去された後、2年後にはビニールハウスが建ち、7年後には撮影位置の背後を走る県道10号塩釜巨理線が高上げされた。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

⌘ 「エクアイグニス温泉棟」工事

被災のために集団移転が行われた藤塚地区に、温泉やレストラン、マルシェ、農園などが複合する施設「エクアイグニス仙台」の建設が進められている(2022年4月にオープン開業予定)。

②

仙台市藤塚地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.21) >>

名取川堤防と道路の間を埋めていたガレキは1年後には撤去された。



<< 10年後(R3.3.10)

5年後には名取川堤防の整備が完成し、7年後には写真右側の閑上大橋に繋がる県道10号塩釜巨理線が嵩上げされた。



△ 県道10号塩釜巨理線

嵩上げされた県道10号塩釜巨理線は、海岸堤防・防潮林と併せた3つ目の多重防御措置として、位置づけられている。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

③

仙台市藤塚地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.21) >>
写真奥に見える防潮林まで、見渡す限りガレキが散乱していた。藤塚の集落は姿を消していた。



<< 10年後(R3.3.10)

3年後にはダム放流警報設備が移設され、5年後には名取川堤防の整備も完了していたが、堤内の基盤整備が完了し道路の再舗装が進められ、インフラ復旧も間近となっている。



▲ 藤塚避難の丘

「避難の丘」は、仙台市が沿岸部5か所に設置しており、高さは10mで平常時は公園として被災地視察や避難訓練などに利用される。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

④

名取市関上地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

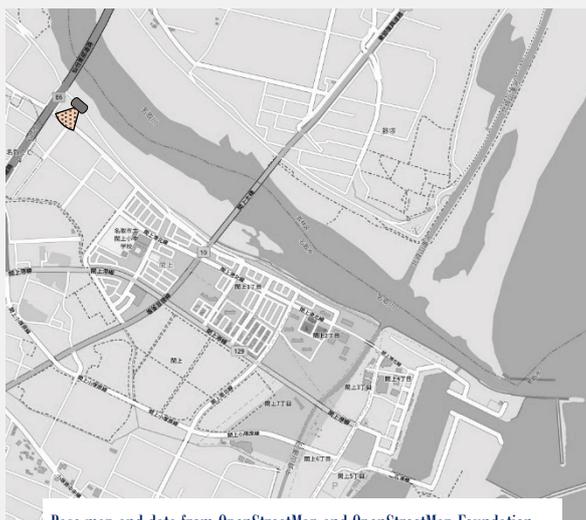
震災直後(H23.3.21) >>
家屋などのガレキが見渡す限り散乱していた。
流されてきた乗用車も多くみられた。



<< 10年後(R3.3.10)
6年後には写真中央の道路はきれいに整備が完了していた。
現在は、津波の痕跡は全く見られない。



△ 2年後 (H25.3.7)
1年でガレキはすべて撤去され、その後は水田も整備されて2年後からは耕作が始まっていた。
写真右上隅を走る東部道路は、津波の侵入を減衰させる働きをした。
そのため、東部道路の山側(右側)では、ガレキも被害も比較的少なかった。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

⑤

名取市関上地区

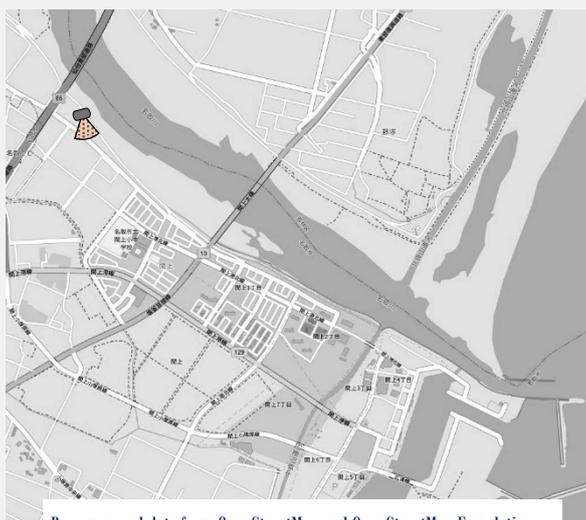


10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.21) >>
見渡す限りガレキで埋め尽くされていたが、左上の家屋や堤防に被害は見られなかった。



<< 10年後(R3.3.10)
2年後には耕作が始まり、現在、津波の痕跡は全く見られない。
6年後あたりから、写真奥で区画整理が進んでいる。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ ゆりあげ復興区画整理事業 (H27.3)
「関上復興土地区画整理事業」は、事業期間を平成25年11月25日～令和3年3月31日としている(HPより)。

⑥
名取市閑上地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

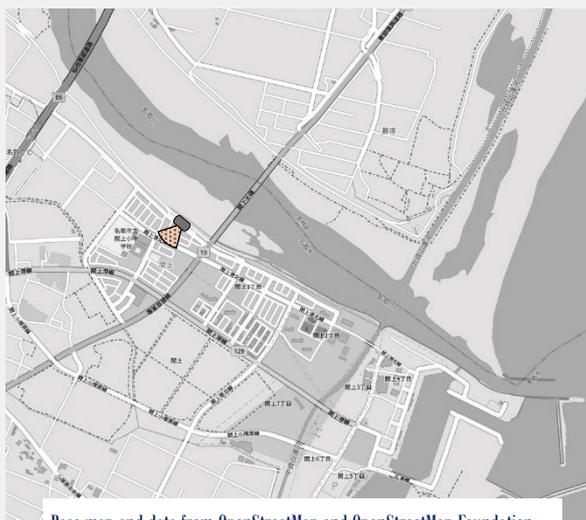
震災直後(H23.3.21) >>
家屋に外見上の大きな損傷は見られなかったが、流されてきた乗用車が多くみられた。



2011/03/21



<< 10年後(R3.3.10)
4年後あたりから「閑上復興土地区画整理事業」の整地工事が始まり、その後は住宅建設が進み、現在は一段落したように見える。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ あんどん松

撮影地点の背後（名取川の南側堤防沿い）には、140mに渡って続くクロマツ並木「あんどん松」がある。

仙台藩初代藩主 伊達政宗により遠方から取り寄せて植えたもので、現在残っているのはその一部。

現存する46本の松は大震災に耐え、変わらない姿で今も残っている。

⑦

名取市閑上地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.21) >>

写真中央の名取川右岸堤防は、フェンスが曲がり舗装もはがされてしまったが、2年後には仮復旧が行われた。

堤内地の家屋被害も大きかった。



名取川

2011/03/21

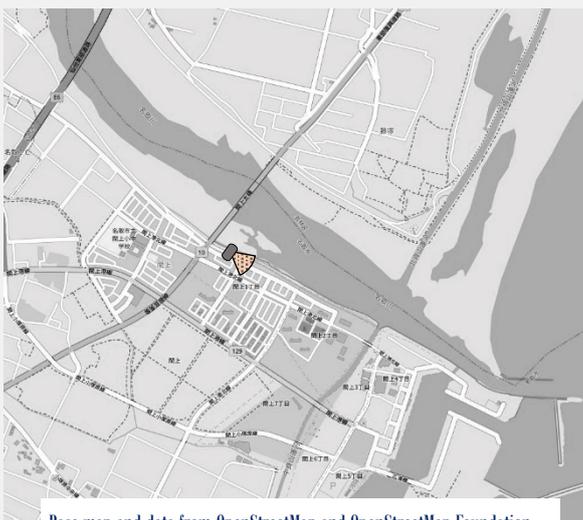


かわまちてらす閑上

<< 10年後(R3.3.10)

6年後には堤内地の嵩上げが急速に進み、堤防もほぼ完成した。

8年後には「かわまちてらす閑上」が建ち始め、現在は完成している。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ かわまちてらす閑上

「かわまちてらす閑上」は2019年4月にオープンし、生まれ変わった閑上のまちを照らし、川辺の憩いのテラスとなることが期待されている。10年目は多くの人でにぎわっていた。

⑧

名取市閑上地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.21) >>

撮影地点の後ろは名取川堤防で、川を越えた水が直撃したせいか、家屋は大きく壊れていた。

これらの家屋は、5年後にはほぼ撤去された。



<< 10年後(R3.3.10)

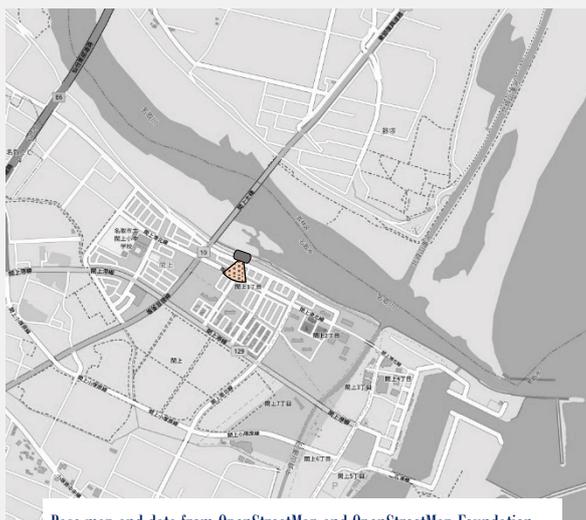
5年後から、この地域一帯は「閑上復興土地区画整理事業」による高上げ盛土工事が始まり、7年後には街路も完成し、住宅が建ち始めていた。

写真左先に「かわまちてらす閑上」が完成したためか、車の数が多い。



△ 6年後 (H29.3.9)

高上げ工事が進んだ6年後は、多くのダンプカーが土煙をあげて忙しく動きまわっていて、撮影地点の特定に困惑する程に見渡す限り更地化していた。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

⑨

名取市関上地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.21) >>

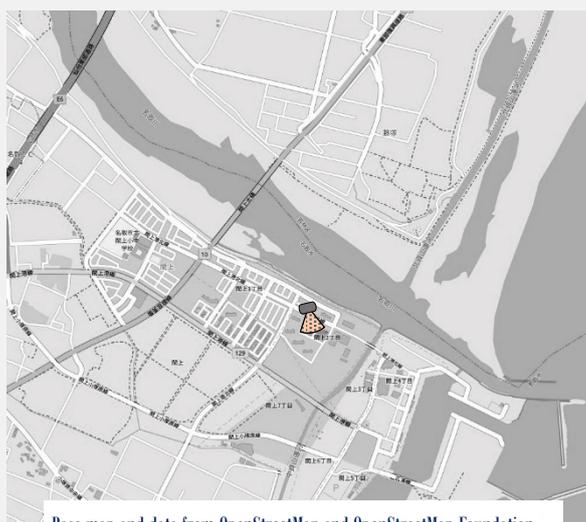
この周辺の住宅の多くは、海に近かったためか、基礎だけを残して跡形もなく破壊されていた。

写真右には破壊されて傾いた東禅寺が見える。



<< 10年後(R3.3.10)

4年後には東禅寺は撤去され、土地の高上工事が行われ、7年後には元の場所に再建された。周辺には復興公営住宅が何棟も建っていた。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



⋈ 復興公営住宅・東禅寺

写真中央の東禅寺は、全壊後にほぼ同じ場所で再建された。

現在は墓地もきれいに整備され、敷地内には慰霊碑も建てられている。

写真後方の復興公営住宅のほか、撮影地周辺にも多く建てられていて、入居も進んでいる。

⑩

名取市関上地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.21) >>

名取川特殊堤の手前にあった土堤は津波で洗い流され、中に埋まっていた管渠が顔を出していた。

この特殊堤は2年後に仮復旧した。



名取川右岸特殊堤



震災復興伝承館

<< 10年後(R3.3.10)

5年後には特殊堤は撤去されて、堤防の盛土工事が進んだ。
6年後には堤内地の嵩上げ工事も進んだため、平坦になって堤防が見えなくなった。
9年後は、嵩上げ地に「名取川震災復興伝承館」が建設されていた。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ 震災復興伝承館

この伝承館は、「東日本大震災の記憶及び教訓を世界各地そして後世に伝承し、震災を風化させることなく、防災意識を醸成していくことを目的。」として建設され、令和2年5月に開館した。

⑪

名取市閑上地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.21) >>

名取川の堤防本体に大きな損傷は見られなかったものの、堤防法下に沿ってあったアスファルト舗装がすべてめくれ上がっていた。



名取川右岸堤防

堤防法下歩道

2011/03/21



<< 10年後(R3.3.10)

6年後には道路舗装が完成し、堤内の基盤整備も完了した。

現在は、道路の再舗装が進められ、インフラ復旧も間近となっている。



⤴ 4年後 (H27.3.10)

2年後から名取川右岸堤防の復旧工事が始められ、4年後には盛土が完成し、護岸ブロックが設置された。

6年後には、護岸は覆土され、芝工とともに側道も整備された。

堤防内部に埋められたブロックは、津波が越流しても堤防を決壊させないためのものである。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

⑫

名取市関上地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.21) >>

この周辺に有った水産関連施設はほとんどが跡形もなく破壊された。

写真左側に残った鉄塔に張り付いているガレキから、津波の高さが伺える。

写真右側の建物は、2階の壁まで無残に破られていた。

1年後には、写真中央奥にがれき処理施設が建設されたが、3年後には撤去された。

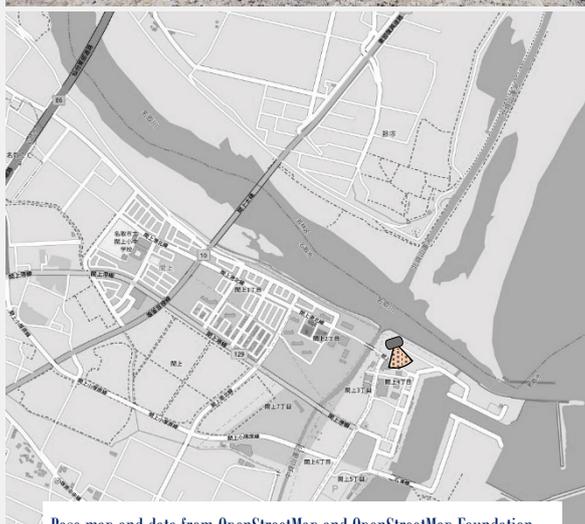


2011/03/21



<< 10年後(R3.3.10)

6年後には面整備工事が本格化し、7年後からは並行して水産関連施設の建設が進んでいる。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



⤴ 水産加工団地

津波で被災した災害危険区域の約4.7ヘクタール(9区画)で関上水産加工団地の整備が進められた。

⑬

名取市関上地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.21) >>
貞山堀とその両岸はガレキで埋められた。
撮影地点の橋の欄干は津波で飛ばされていた。



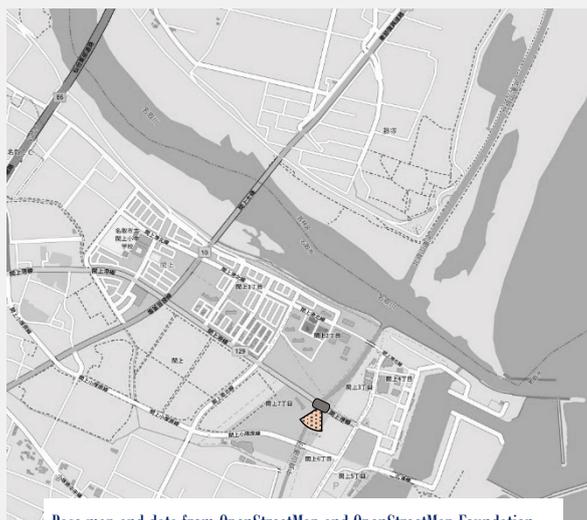
貞山堀



<< 10年後(R3.3.10)

6年後には撮影地点にしていた橋の南側で新橋の建設工事が始まり、8年後には完成して撮影地点の旧橋の撤去が始まった。
貞山堀上下流の護岸整備も10年後には完了していた。

【9年後には旧橋が撤去されたため、9年後以降の写真は新橋から撮影している。】



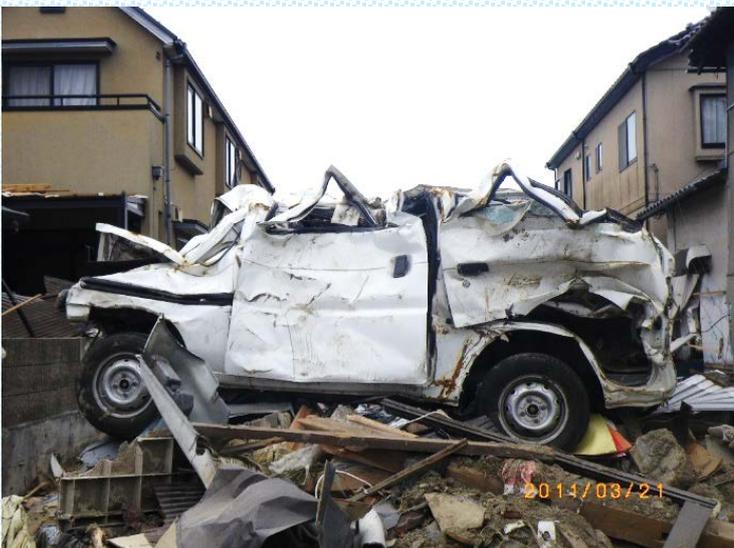
Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ 完成後の橋

新橋については、4年後から地質調査が、6年後から本体工事が始まり、8年後に完成した。

仙台市若林区藤塚地区・名取市閑上地区 震災直後の様子



名取市閑上地区 撮影地点周辺の様子

名取川「かわまちづくり」と閑上地区(右が名取市閑上地区)



震災 7 年後

▲ 7年後 背後地が堤防の高さまでかさ上げされ、街づくりが進んでいる。

▼ 9年後 「かわまちテラス閑上」の店舗施設も完成し、賑わいを見せている



震災 9 年後

ゆりあげ港朝市と防潮堤

閑上小中学校

この校舎から初めての卒業生を送り出した

かわまちテラスの賑わい



7 年後



8 年後



9 年後

基盤整備が完了し街として機能し始めた閑上地区



震災 7 年後



震災 10 年後

かさ上げ道路（県道 10 号線）

災害公営住宅

津波緊急避難所としても位置づけられている。



4 年後

道路計画



10 年後

かさ上げ道路も完成し供用された



9 年後

仙台市若林区 荒浜地区 ~写真撮影位置図~



出典：国土地理院ウェブサイト (<http://maps.gsi.go.jp>)

①

仙台市荒浜地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.24) >>

かつて住宅が密集していたが、建物が津波で全て流され、遠くの荒浜小学校まで見通せるようになっていた。

校舎脇にあった体育館は、3年後には撤去されていた。



体育館

荒浜小学校



<< 10年後(R3.3.10)

現在は建物の基礎も撤去され、更地化されている。

写真左側の道路もきれいに整備され、背後の荒浜海岸までバスが運行されている。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△荒浜小学校

荒浜小学校では、震災時に児童や職員、住民ら 320 人が避難し、2階まで津波が押し寄せた。

6年後からは震災遺構保存展示施設として活用が始まり、被害状況や被災直後の様子を伝える写真などが展示されている。

②

仙台市荒浜地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.24) >>
見渡す限り、全ての物が破壊されていた。
貞山掘沿いのフェンスが全て陸側になぎ倒され、写真中央奥にあったはずの荒浜排水機場も見えなくなっていた。



<< 10年後(R3.3.10)
3年後には荒浜排水機場も再建され、7年後には貞山掘や側道がきれいに整備された。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

△震災直後の荒浜排水機場

貞山掘に雨水を排水していた多くの機場は、津波によって全て破壊された。そのため、震災後数年は幾度も浸水に見舞われた。
しかし現在は、その全てが復旧した。

③

仙台市荒浜地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.24) >>
奥に見えるコンクリート製の建物を残して全てが破壊されていた。
海岸沿いの防潮林が僅かに残った。



荒浜海岸

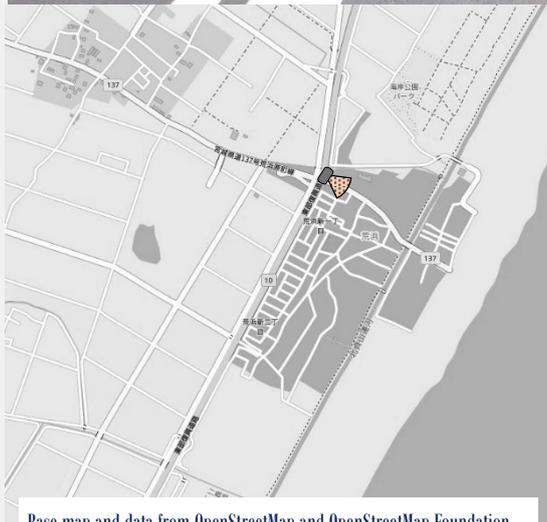
2011/03/24



震災遺構 仙台市荒浜地区住宅基礎

荒浜慈聖観音

« 10年後(R3.3.10)
1年後には大半のガレキは撤去された。
その後の数年間は目立った変化はなかったが、9年後には歩道の整備工事が進められた。
令和元年より「震災遺構 仙台市荒浜地区住宅基礎」の整備が完了して一般公開されている。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ 荒浜慈聖観音
2年後、僅かに残った防潮林の中に荒浜慈聖観音(東日本大震災慰霊之塔)が建立された。

④

仙台市荒浜地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.24) >>

貞山堀には、押し流されたトラックや乗用車が無残な姿で沈んでいた。堤防沿いの道路と法面は砂で覆われていた。



<< 10年後(R3.3.10)
7年後には貞山堀の護岸と道路の整備が完了していた。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



≈ 1年後 (H24.3.14)
1年後にはガレキが撤去された。それ以降、護岸や道路は整備されたが周りには橋を渡る車以外人の動きは見られない。

仙台市若林区 荒浜地区 震災直後の様子



七北田川の堤防が津波で流され、樋門だけが残った。



QRコードを読み取るか、Web版をご覧の方は、クリックでmovieにリンクします。



仙台海岸 海岸堤防

« 【震災直後】

海岸堤防を乗越えた津波により浸食された法先。



« 【10年後】

津波災害からの「多重防御」の一翼を担う粘り強い「仙台湾南部海岸堤防」26kmが6年後に完成。浸水面積の軽減や避難時間の確保など、安全・安心まちづくりが大きく前進した。



震災遺構 仙台市立荒浜小学校とその周辺



【震災遺構保存】

荒浜小学校校舎・住宅基礎群を保存することとなった、遺構保存エリア。

【荒浜小学校】



堤防背後地では、海岸防災林の再生も進んでいる。



【見学用通路が整備された震災遺構：荒浜住宅基礎】



【荒浜慈聖観音像】

石巻地区

～写真撮影位置図～



出典：国土地理院ウェブサイト (<http://maps.gsi.go.jp>)

4年産

①
石巻地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.22) >>
道路が啓開され壊れた車やガレキが道路脇に寄せられていたが、人と車の動きは少なかった。



<< 10年後(R3.3.10)
現在は、移動する車の数も徐々に増え、沿道の商店も開いて賑わいが少しずつ戻ってきたように見える。



^ 4年後 (H27.3.10)
4年後には道路両側にあったアーケードが撤去され、歩道もきれいに整備された。

Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

②

石巻地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.22) >>

津波によって陸に押し上げられた船と壊れた車が道路上のあちこちで見られた。

1年後には船も車も撤去され、車が行き交っていた。



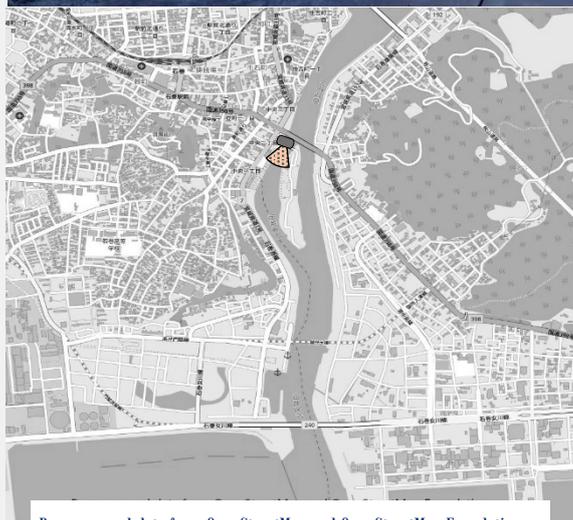
石巻市かわまち交流センター

いしのまき元気いちば

<< 10年後(R3.3.10)

2年後あたりからビルの解体撤去が始まり、7年後には写真左のビル3棟は撤去され、その奥に「いしのまき元気いちば」がオープンした。

更に翌年には「石巻市かわまち交流センター」が完成して運営を始めている。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ 石巻市かわまち交流センター「かわべい」

「石巻市かわまち交流センター」は旧北上川沿いにあり、市や民間が震災からの復興に向け街を活性化しようと、市の観光や物産の情報を紹介している。

③

石巻地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.22) >>

旧北上川に架かっていた内海橋は、震災直後はがれきに埋もれて損傷したため通行止めとなっていた。



石ノ森萬画館

内海橋

2011/03/22



西中瀬橋

◀ 10年後(R3.3.10)

内海橋の補修は2年後に完了してその後は大きく変化していなかったが、8年後には内海橋の上流(写真左)で新橋(西中瀬)の工事が始まった。

新橋は10年後には完成して、内海橋の撤去工事が進んでいた。



⤴ 2年後の内海橋

写真右奥の石ノ森萬画館では、1階にあった全ての物が川へ流され大きく損傷したが、スタッフや全国から駆けつけたボランティアによって撤去作業が行われ、震災発生から2年弱で再オープンした。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

④

石巻地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.22) >>
橋の上に乗上げた大小のガレキで、手前側歩道は大きく壊れていて見えない。



<< 10年後(R3.3.10)
内海橋は1年後には修復され、2年後には仮設の歩道が設置されたが、10年後には上流に西中瀬橋が完成したため、撤去工事が進んでいた。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

△西中瀬橋
新内海橋の直下流に中瀬に亘るためにもう一つの橋が建設された。中瀬に渡る橋は、右岸側は西中瀬橋・左岸側は東中瀬橋と命名され内海橋と区別している。西は車両通行可能だが東は車両の通行は出来ない。橋の下流の写真手前では、旧北上川の堤防整備が進められ、川沿いの遊歩道がにぎわいづくりに一役買っている。

⑤

石巻地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.4.12) >>

震災一か月後にはガレキは概ね撤去されていたものの、写真右上のビルは傾き、中央奥には大型船が乗り上げていた。

ここで見た範囲では、旧北上川の特設堤に損傷は見つからなかった。

1年後には、写真右上の建物は撤去された。



旧北上川

堤防 (特殊堤)

2011/04/12



<< 10年後(R3.3.10)

1年後あたりから河川堤防の補修・整備が始まり、7年後には築堤工事が、8年後には川前の護岸が完成し、9年後は堤防が概成した。

現在、この周辺はほぼ完成している。

堤防の右奥には「いしのまき元気いちば」が建てられた。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



※ いしのまき元気いちば

「いしのまき元気いちば」は、旧北上川の堤防沿いにあり、石巻市、食品加工関連会社、地元料理店と企業が集まって運営している。2階の食堂には、堤防にアクセスできるテラス席が設けられ、川と一体となった環境が魅力となっている。

⑥
石巻地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.22) >>
道路は啓開されていたが、両側の家の前にガレキが高く積まれていて、人の姿はほとんど無かった。

写真中央にある白い看板の宿は、かつて社員が頻繁に泊まっていたが、ほぼ全壊していた。

1年後には多くの建物が解体撤去されていた。



<< 10年後(R3.3.10)
4年後あたりから新しい建物が徐々に建ち始め、6年後には道路も見違えるほどきれいに整備された。
写真中央奥には復興公営住宅が建っていた。



△ 6年後 (H29.3.9)
6年後以降は大きく変わっていないが、周辺では建物の新築が進んでいて、車の数も多くなってきた。



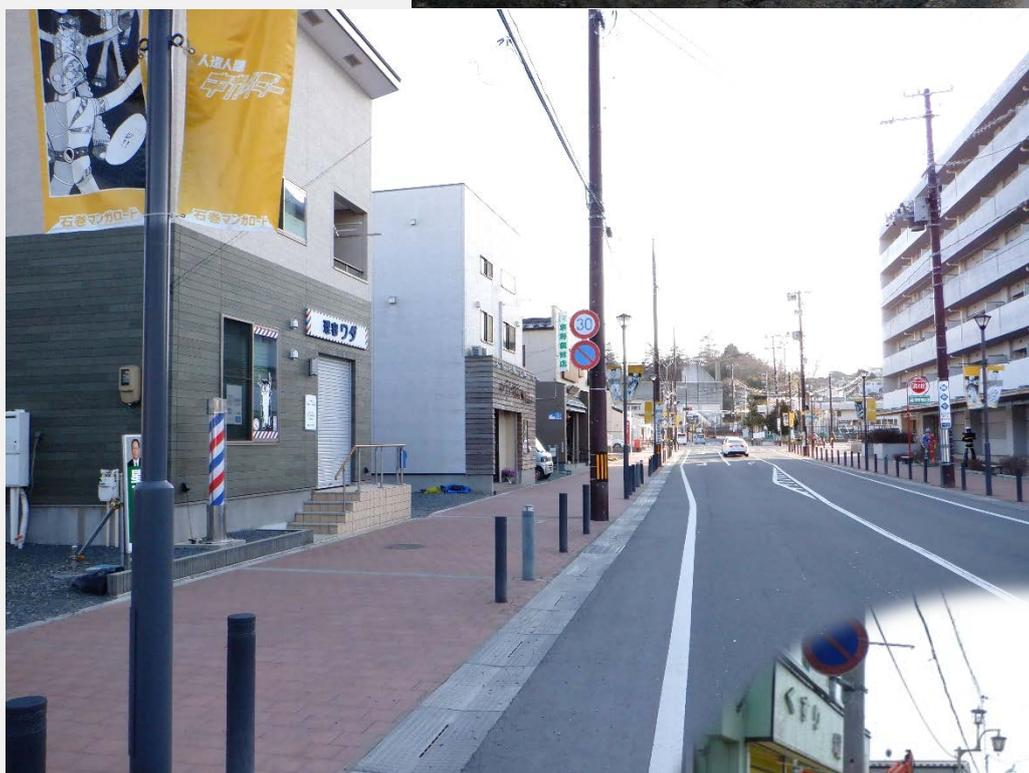
Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

⑦
石巻地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.3.22) >>
道路は啓開されていたが、両側の家の前にガレキが高く積まれていて、人の姿はほとんど無かった。



<< 10年後(R3.3.10)
4年後あたりから新しい建物が徐々に建ち始め、6年後には道路も見違えるほどきれいに整備された。
写真右端には6階建ての復興公営住宅が建っていた。



復興公営住宅建設現場

△ 4年後 (H27.3.17)
写真右の復興公営住宅建設は4年後から始まった。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

⑧

石巻地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.4.12) >>

中瀬にはいくつかの建物が形を残していたが、僅かに残っていた造船所も含めて大半が姿を消していた。

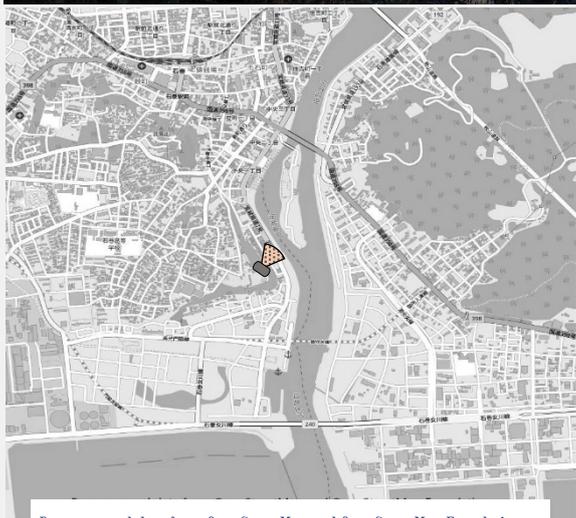
写真左上には、津波に耐えて残った石ノ森萬画館が見える。



<< 10年後(R3.3.10)

中瀬では、1年後にはガレキが撤去され、以後は道路が整備された様子うかがえるものの、ほぼ更地のまま残っている。

現在では、写真手前の旧北上川沿いにあった建物は、堤防整備に伴って撤去されている。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ 旧石巻ハリストス正教会

石巻市指定文化財である旧石巻ハリストス正教会教会堂は、7年後あたりから再建が進められ、8年後には教会堂とその周辺の公園が完成していた。

⑨

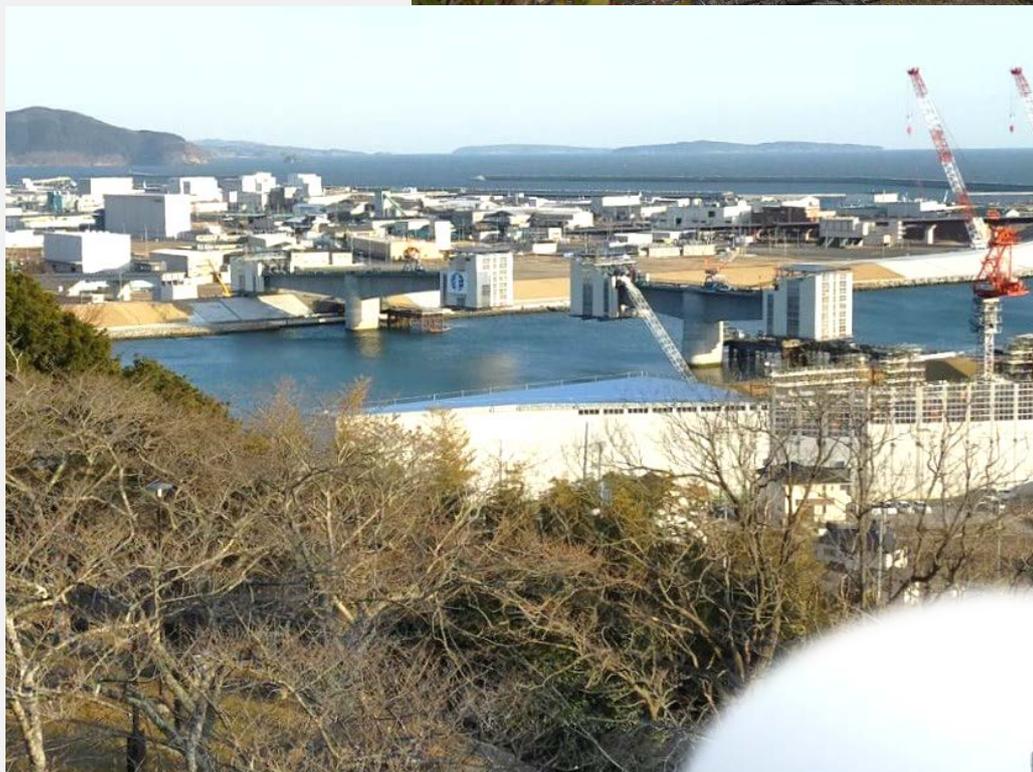
石巻地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.4.12) >>

旧北上川の左岸では早くにガレキ撤去が進み、1年後にはガレキ集積場となって大量のガレキが山のように積まれた。



<< 10年後(R3.3.10)

7年後あたりから新橋の建設が始まり、完成が間近。

R2年10月新橋の名称は「石巻かわみなと大橋」と決定した。

写真手前の白い建物は、建設中の石巻中央排水ポンプ場。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



※ ガレキ集積場

震災1年後には多くのガレキが集められていた。

⑩

石巻地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.4.12) >>
道路は啓開されていたが、手前に残った建物周辺はガレキで埋め尽くされていた。



<< 10年後(R3.3.10)
船溜まりの周囲は新しく完成した堤防で囲まれ、写真中央には新橋に続く道路が完成していた。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ 6年後 (H29.3.9)
5年後に復興公営住宅(写真右下)の建設が始まり、6年後には完成した。7年後には、新橋の橋脚建設が始まった。

⑪

石巻地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

1年後(H24.3.24) >>

称法寺周辺は、ガレキが撤去されて海岸まで更地が続いていた。

石巻市立病院は、津波により建物1階部分が壊滅的被害を受け、2年後に解体されて5年後には石巻駅前に移転した。



<< 10年後(R3.3.10)

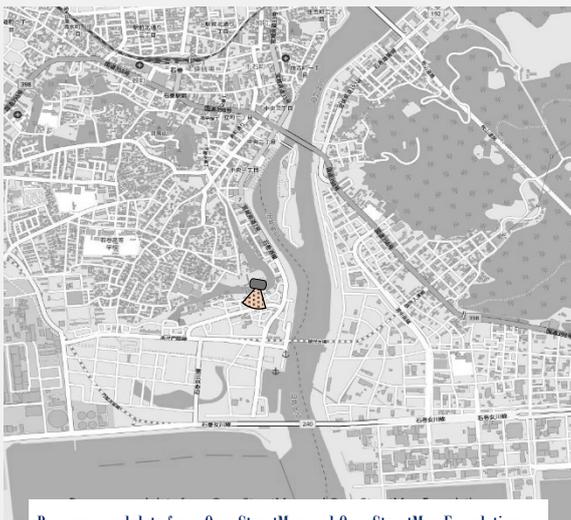
市立病院周辺は全く姿を変えて整備されていた。

写真手前には復興公営住宅が建ち、右側には国立石巻南浜津波復興記念公園の北側一部が見える。



⤴ 4年後(H27.3.17)

4年後、市立病院は完全に姿を消し、僅かに残った建物の周りは更地が広がっていた。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

石巻地区 震災直後の様子



QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

石巻地区 撮影地点周辺の様子

旧北上川「いしのまき水辺の緑のpromenade」



かわまちづくりの施設活用が始まり、水辺の賑わいが期待されている。



かわまちの拠点「石巻市かわまち交流センター」



「いしのまき元気いちば」



いしのまき元気いちば

石巻市かわまち交流センター

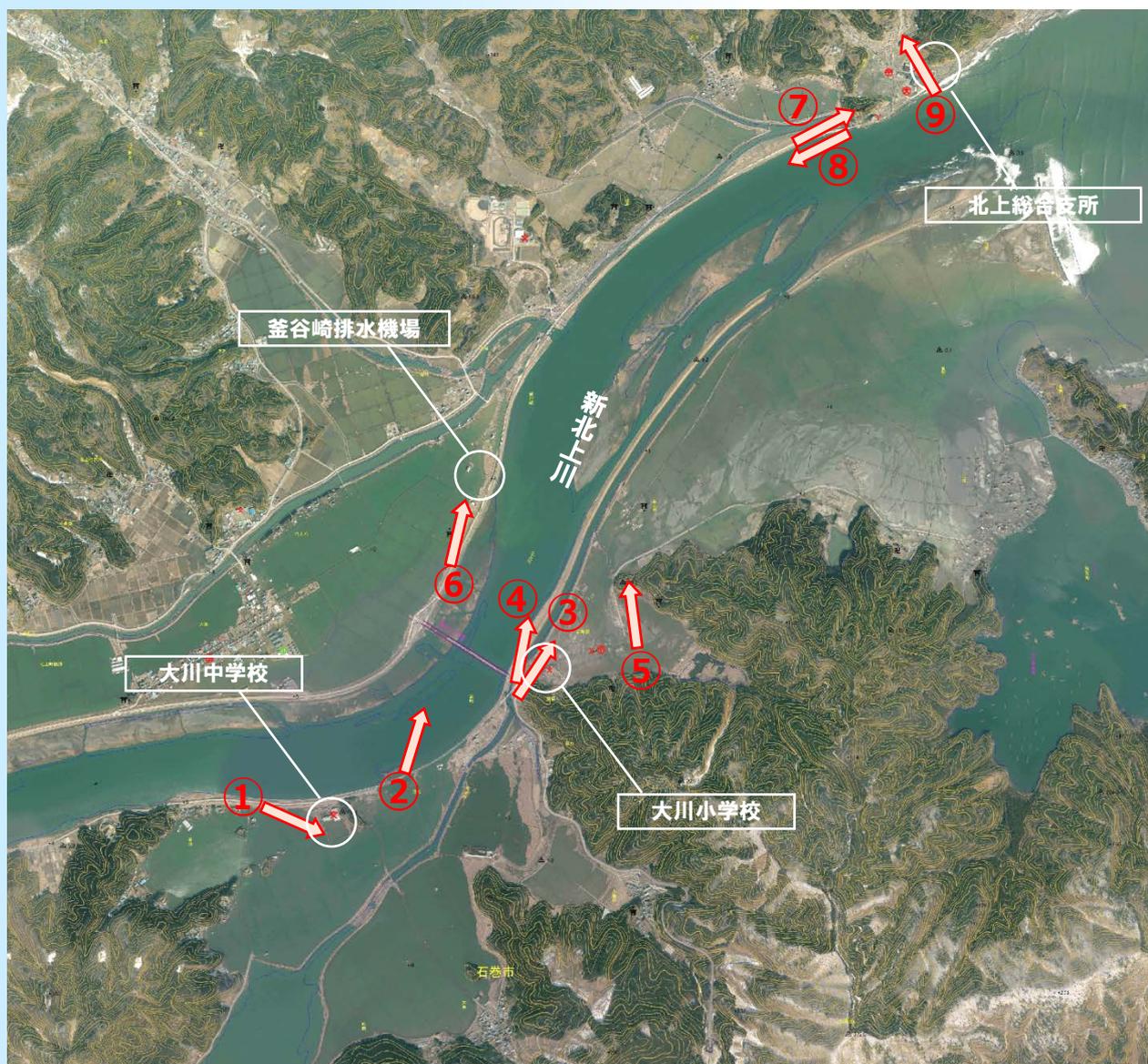
完成した石巻南浜津波復興記念公園



(左：1丁目の丘から望む、右：中核的施設)

新北上川河口

～写真撮影位置図～



出典：国土地理院ウェブサイト (<http://maps.gsi.go.jp>)

①

新北上川河口



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.4.1) >>
新北上川から津波が侵入し、農地が広く浸水していた。
写真左隅に大川中学校の校舎が見える。



≪ 10年後(R3.3.11)

3年後には水田も復旧し、大川中学校は撤去されていた。4年後には水路改修と道路整備が行われた。

この場所は、その後ほとんど変わっていない。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ 3年後 (H26.3.11)

石巻市立大川中学校は、津波で校舎の1階部分が浸水する被害を受けた。

震災後は飯野川中学校の校舎を借用して学校活動が行われていたが、生徒数が20人に減ったため、2013年3月に閉校（石巻市立河北中学校に統合）した（HPより）。

②

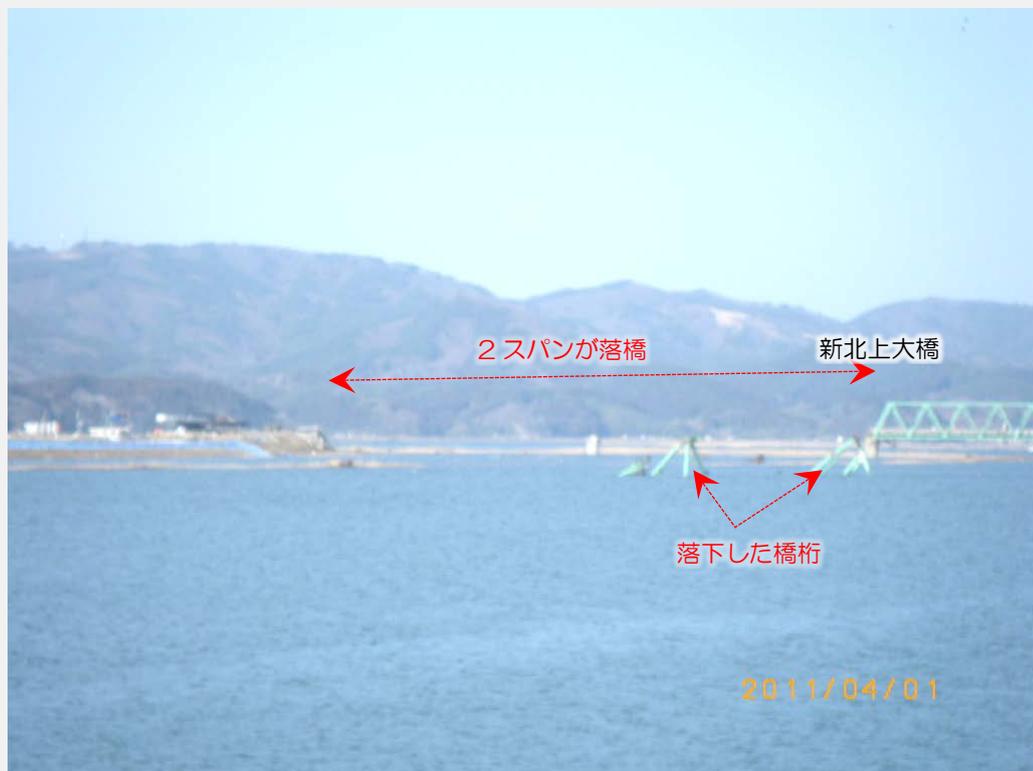
新北上川河口



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.4.1) >>

新北上川大橋は、津波によって左岸側の2スパン分が落橋した。落ちた橋桁は1km以上上流に流され、緑色のトラス部材が水面上に現れている。



<< 10年後(R3.3.11)

落橋した新北上大橋は1年後には仮復旧し、6年後には本復旧も完了した。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ 新北上大橋 (10年後)

右岸側から見た新北上大橋 10年後の様子。落橋区間は、落橋前と同じ構造、色で修復されたため、外見からは当時の被害を伺い知ることはできない。

③

新北上川河口



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.4.1) >>

道路啓開は出来ていたが、校舎の屋根や周辺はガレキで埋められていた。

1年後にはガレキが撤去され、2年後には整地が行われた。



<< 10年後(R3.3.11)

旧校舎は震災遺構として保存され、毎年、3月11日には慰霊祭が行われている。



△ 旧大川小学校校舎前に設置された慰霊碑

北上川河口から約4kmの川沿いに位置する大川小学校では、多数の児童、教職員が死亡、行方不明となった。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

④

新北上川河口



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.4.1) >>
富士川の両岸には多数のガレキが散乱していたが、1年後にはすべて撤去されていた。



<< 10年後(R3.3.11)
富士川の改修工事は6年後に完了し、その後、現在まで変化はない。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ 4年後 (H27.3.18)
富士川の復旧工事は2年後から始まり、4年後に本格化して6年後には完了していた。

⑤
新北上川河口



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.4.1) >>
この周辺一帯にあった全ての物は破壊され、海と繋がって水に沈んでいた。



<< 10年後(R3.3.11)
3年後あたりから盛土(仮置き)工事が始まり、8年後には整地が完了して耕作(水田)も始まった。



△ **釜谷診療所**
高さ 10m近い津波に襲われた近所にあった診療所。
建物の躯体だけが傾いて残っていた。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

⑥
新北上川河口



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.4.1) >>
北上川の堤防法面が津波で洗われ、道路を覆っていたアスファルトも剥がされて散乱していた。写真左の釜谷崎排水機場に、外見上の被害は見られなかった。



<< 10年後(R3.3.11)
北上川堤防は嵩上げ、拡幅により強靱化している。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



^ 3年後 (H26.3.11)
北上川河口部堤防の復旧・復興事業は震災直後から開始され、6年後にはほぼ完成していた。

⑦

新北上川河口



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.4.1) >>

月浜第二水門は、津波により一部のゲートが飛ばされた。

そのゲートは6年後にようやく撤去され、現在は北上川河川歴史公園に移設・展示されている。

同水門は、上流に新たに建設されている。



<< 10年後(R3.3.11)

6年後には写真右側の堤防整備が始まり、7年後にはほぼ完成していた。

現在は、周辺に重機の姿はない。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ 北上川河川歴史公園に移設

北上川河川歴史公園に移設・展示された旧月浜第二水門のバランスゲート。明治43年洪水を機に実施された北上川第一期改修工事の石造り樋管や工事跡から発掘された煙突などともに展示されている。

⑧

新北上川河口



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

震災直後(H23.4.1) >>

新北上川の堤防裏面は津波によって洗われ、埋設されていた光ファイバーも剥き出しになって無残な姿を見せていた。

1年後には堤防の仮復旧が完了していた。



<< 10年後(R3.3.11)

7年後には、きれいな姿で堤防整備が完了した。

また、写真左上に見える月浜第二水門の新設工事は、3年後あたりから始まり、7年後には完成していた。



^ 月浜第二水門

津波で壊された旧水門(「⑧新北上川河口」写真参照)を、上流に新設した。

【本水門の実施設計は、弊社が受託して行った】

Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

⑨

新北上川河口



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。



震災直後(H23.4.1) >>

石巻市北上総合支所は、2階を上回る高さの津波に襲われて無残に破壊された。

2年後には撤去され、更地となっていた。



<< 10年後(R3.3.11)

5年後にはほぼ同じ場所で排水樋管の建設が始まり、6年後にはその上をって新北上川堤防の建設が進んでいて、7年後にはほぼ完成していた。

北上川の川幅が広げられて支所の跡地に堤防が築かれたため、この周辺の景色は一変した。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



※ 石巻 川のビジターセンター

新たに築かれた堤防の裏側には、平成28年に「石巻川のビジターセンター」がオープンしている。

この施設は、自然体験活動を通して森・川・里・海のつながりを体験する拠点施設として整備された。

新北上川河口 震災直後の様子



新北上川河口 撮影地点周辺の様子



河口域環境調査（弊社担当）



北上川の汽水域に生息するシジミ（呼称：べっこうシジミ）は、津波襲来による地形変化、塩分変化により激減したが、近年は漁獲量が回復してきた。



大川小学校旧校舎
震災遺構として保存が決まった大川小学校旧校舎。



新北河口の左岸堤防
新北上川河口部(左岸)では、強固な堤防が完成した。



石巻川のビジターセンター
8年後にオープンした石巻市北上物産交流センターと「川のビジターセンター」。



吉浜小学校跡地
跡地には東日本大震災慰霊碑などが建造され、津波伝承が行われている。この場所では、慰霊碑（右）翼の下まで津波が達した。

女川・雄勝 ～写真撮影位置図～



女川



雄勝



出典：国土地理院ウェブサイト (<http://maps.gsi.go.jp>)

①

女川地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

1年後(H24.2.4) >>

女川港は、地震による沈下もあって見る影もなく破壊されていた。

写真右に見える女川町営の観光物産施設「マリンパル女川」も壊滅的な被害を受けていた。



マリンパル女川



<< 10年後(R3.3.11)

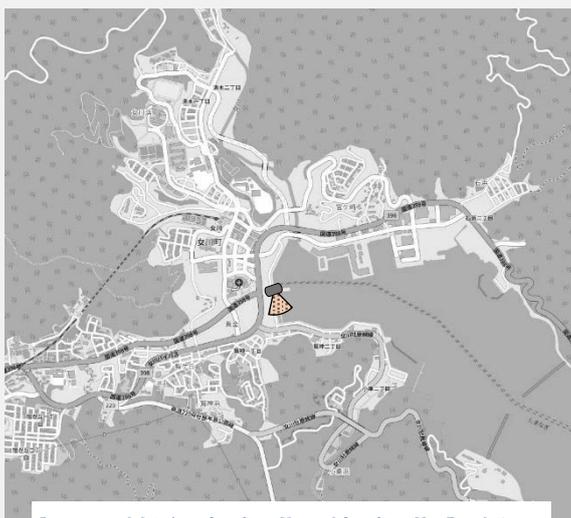
2年後には係留岸壁の復旧・嵩上げ工事が始まり、5年後には完了していた。

現在、撮影地点の背後には女川市場などが整備されている。



△ 女川港

現在、港内には漁船やプレジャーボートが多く係留されていて、賑わいが戻りつつある。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

②

女川地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

1年後(H24.2.4) >>

3年後から、転倒したビルの撤去工事が始まり、4年後には更地となった。



転倒したビル



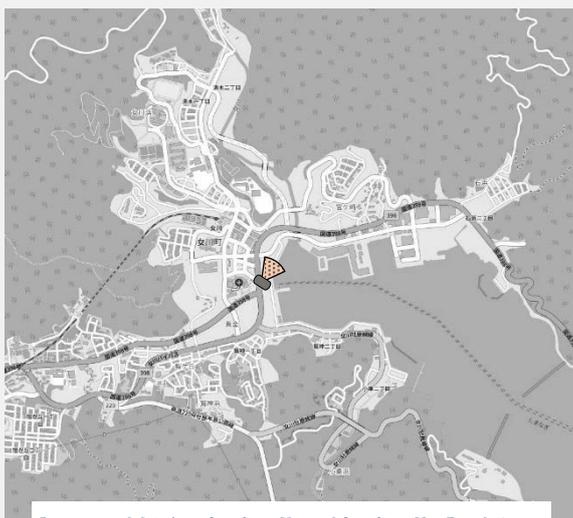
<< 10年後(R3.3.11)

8年後には、岸壁も道路も整備が完了していた。



⤴ 江島共済会館のビル

女川では、津波で基礎から横倒しになったビルが複数見られた。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation

③

雄勝地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

1年後(H24.2.4) >>

雄勝湾を囲んでいた防潮堤が海側に転倒・落下していた。

この情景は、10年後も変わっていないかった。

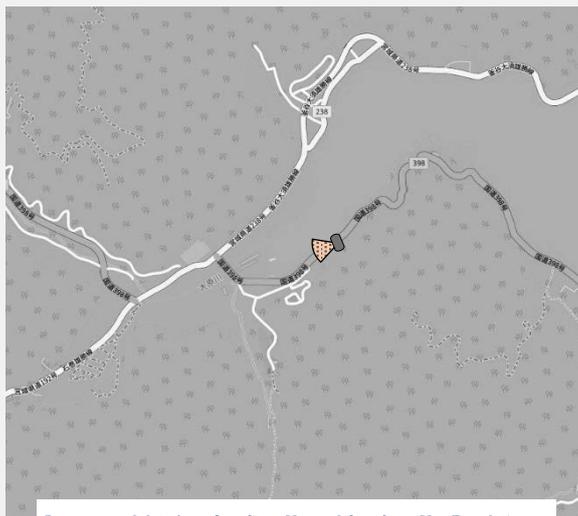
写真奥に見える雄勝硯伝統産業会館は、3年後には撤去されていた。



<< 10年後(R3.3.11)

9年後あたりから、湾を囲んで高い垂直の堤防が建設され始め、現在も進められている。

また、写真中央の船揚げ場は、震災後に改修されている。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ 雄勝防潮堤

雄勝湾を囲む高さ 9.7メートルの直立の防潮堤、その整備工事は終盤を迎えていた。

④

雄勝地区



10年の軌跡 movie
QRコードを読み取るか、web閲覧の方はコードのクリックで閲覧できます。

1年後(H24.2.4) >>

津波によって、内部が破壊された建物の屋上にバスが打ち上げられた。

2年後、この建物は撤去され、写真左には集められたガレキが高く積み上げられていた。



<< 10年後(R3.3.11)

撮影地点では4年後あたりから河川の大幅な改修工事が始まり、完成間近。

現在、周辺の景色は一変して、撮影地点の特定すら難しい状況になっている。



Base map and data from OpenStreetMap and OpenStreetMap Foundation



△ 船戸水門

撮影地点定点写真に写っている大原川の河口近くに整備された船戸水門。堤防の高さに圧倒される。

女川 撮影地点周辺の様子



震災5年後



震災7年後



震災9年後



震災10年後

女川町地域医療センターから見下ろしたまち

女川駅前広場とその周辺



女川駅

賑わいを取り戻した「賑わい拠点のまちづくりシンボル軸」



休日は多くの人を訪れる駅前シンボル軸



公開された震災遺構の旧女川交番



温泉施設を併設した駅舎



役場前に設置された慰霊碑



交番周りに設置された説明板と回廊

復旧・復興への取組み

被災地での活動風景

～社会への感謝と貢献～

東日本大震災の発生直後、当社では支援体制を整え、活動を開始しました。以降、被災地の復旧・復興に関わる調査・計画・設計および発注者支援業務を遂行し、成果をあげてきました。

震災から10年が過ぎた今、インフラの復旧が目に見えて進み、少しずつ賑わいを取り戻しつつあります。当社は引き続き、東北地方の復興を支援してまいります。



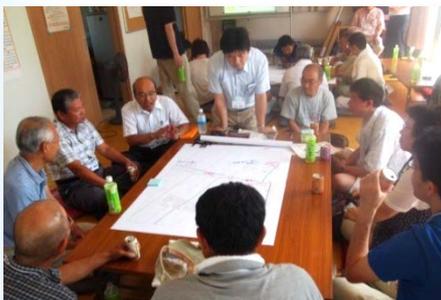
災害調査



高台移転先 住民顔合わせ会 (南三陸町)



マリーナ再開に向けた現地調査 (福島県)



震災の伝承を考えるワークショップ (仙台市若林区)



住民参加の津波到達高さ表示板設置式 (南三陸町)



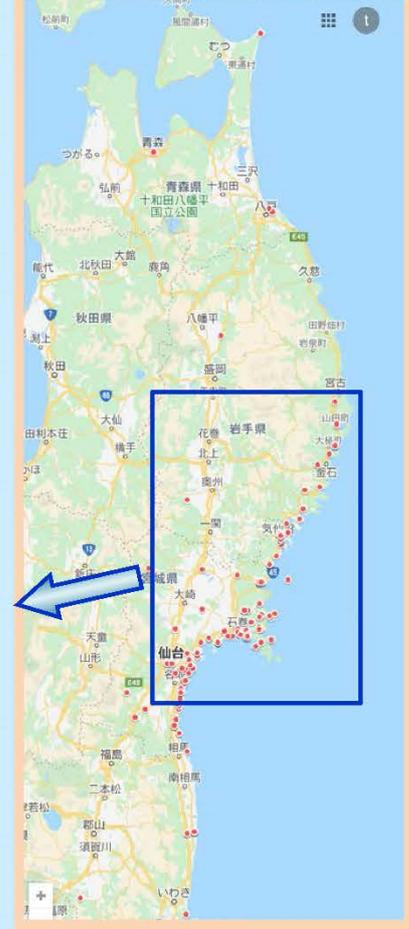
津波の浸水深を示す看板の設置 (宮城県)

震災復興関連業務 撮影位置図

●主要業務位置図



●：震災復興関連業務実績



④北上川下流月浜第二水門詳細設計業務

⑤船戸水門災害復旧事業調査設計業務

M9.0

⑥北上運河災害復旧調査設計業務

⑦釜釜漁港災害復旧調査・設計業務

⑧仙台湾南部海岸深沼北地区堤防設計業務

⑨北貞山運河災害調査・設計業務

⑩県立都市公園災害調査測量設計業務

⑪仙台湾南部海岸蒲崎地区堤防設計業務

⑫仙台湾南部海岸樋門設計業務

① 南三陸町震災復興事業の工事施工等に関する一体的業務

南三陸町 志津川のまちづくり

発注者：UR 宮城震災復興支援本部

受注者：飛島・大豊・三井共同建設コンサルタント
南三陸町震災復興事業共同企業体

『自然・ひと・なりわいが紡ぐ安らぎと賑わいのあるまち』への創造的復興

津波は市街地等の低地のほとんどを飲み込み、たくさんの尊い命だけでなく、住まいや店舗、魚市場や加工施設等の漁港関連施設、さらには公共施設までも一瞬にして奪い去りました。

南三陸町では、一日も早い復興を成し遂げるため、CM (Construction Management) 方式を導入して復興まちづくりが進められました(※)。

当社は、UR 都市機構から受託した標記の業務に、JV(共同企業体)の構成員として日々精力的に取り組み、令和3年3月の完成に導きました。



志津川地区全体航空写真(R2:10-18)



高台から低地部へ土を運搬



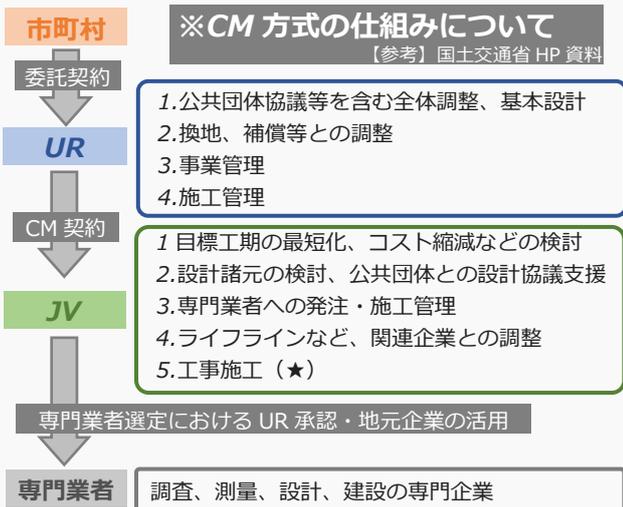
南三陸消防署 (R1:09)



H25.11



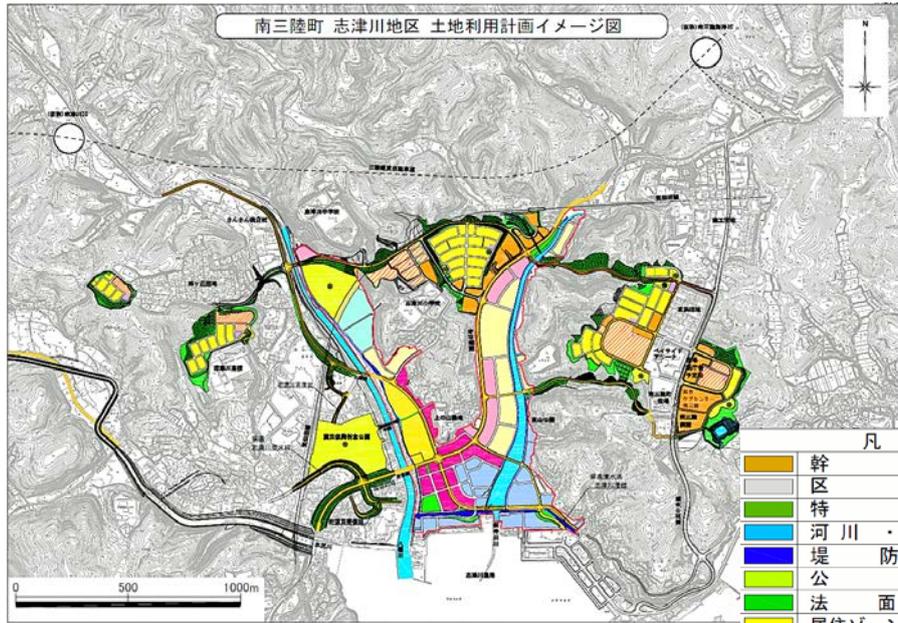
「低地部の高上げ」



(★) 当JVは、工事施工までを一体的に行っているのが特徴です。

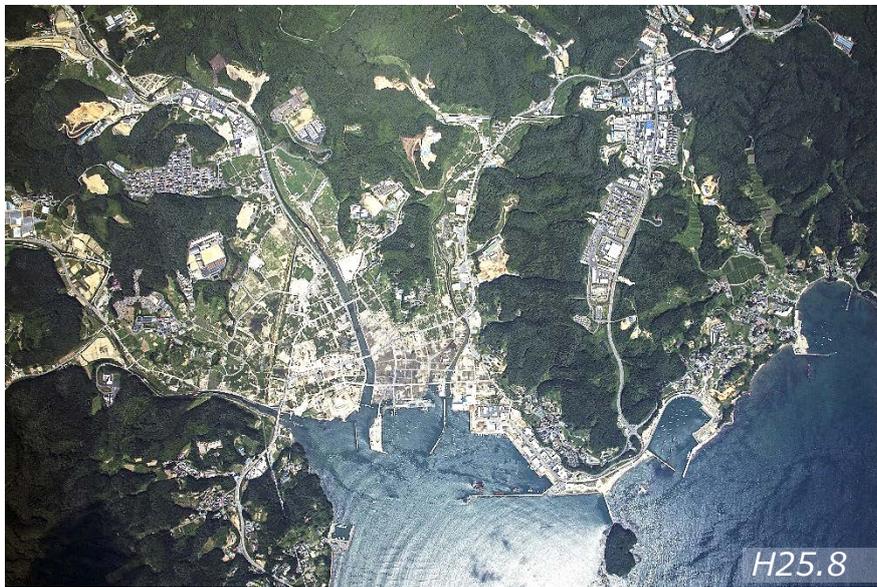
南三陸町 志津川 復興の様子

○復興と計画の概要



【土地利用計画図】

凡 例	
	幹 線 道 路
	区 画 道 路
	特 殊 道 路
	河 川 ・ 水 路 ・ 調 整 池
	堤 防 ・ 護 岸
	公 園
	法 面 ・ 緑 地 等
	居 住 ゾ ン (防 災 集 団 移 転 促 進 事 業)
	居 住 ゾ ン (災 害 公 営 住 宅)
	公 益 的 施 設 ゾ ン
	集 会 所 予 定 地
	沿 道 施 設 エ リ ア
	中 心 商 業 ・ 業 務 エ リ ア
	観 光 ・ 交 流 拠 点
	水 産 関 連 エ リ ア
	流 通 ・ 工 業 エ リ ア
	自 然 的 土 地 利 用 エ リ ア
	そ の 他 エ リ ア
	イ ベ ン ト 広 場



QRコードを読み取るか、Web版をご覧の方は、クリックでmovieにリンクします。



○現地の様子



東地区（東工区）



東地区（西工区）



中央地区



西地区（東工区）

（地上写真 R3.03 撮影）



「さんさん商店街」

祈念公園入口に設置された「南三陸町復興事業（UR+南三陸町CMJV 事務所）の解説板」



震災復興祈念公園の盛土状況 R2.10 撮影



《震災復興祈念公園》

- R1.12.17 ▶ 一次開園
- R2.03.09 ▶ 二次開園
- R2.10.12 ▶ 全面開園



震災復興祈念公園全体開園並びに中橋開通



シンボリック的歩道橋の中橋



震災復興祈念公園 祈りの丘 名簿安置の碑

② 三陸沿岸道路事業管理業務（吉浜釜石工区）

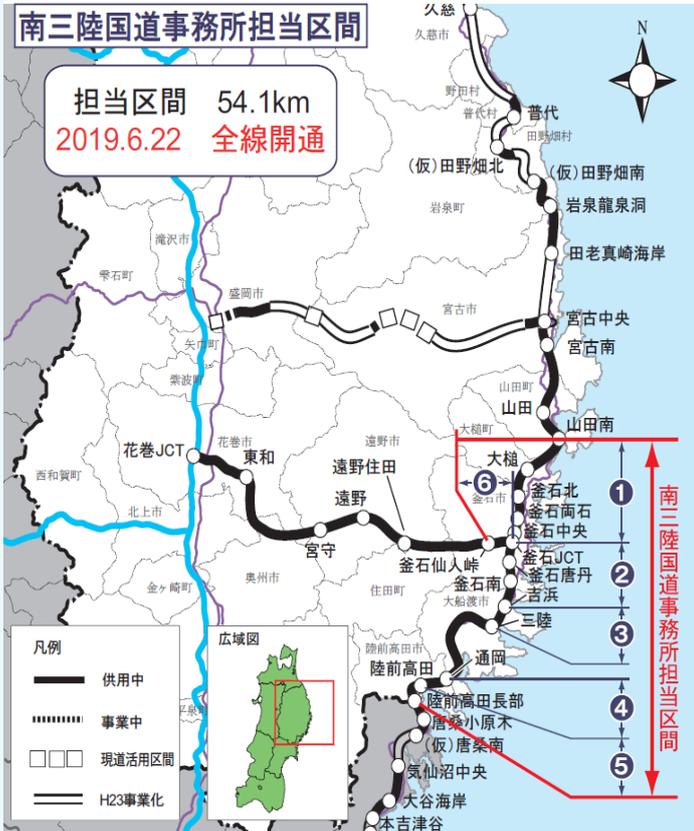
復興道路・復興支援道路

の早期整備

発注者：国土交通省 東北地方整備局
南三陸国道事務所

受注者：熊谷組・三井共同建設コンサルタント・
公共用地補償機構・オリエンタル白石
設計共同体

復興・復興支援に向けた官民の緊密なパートナーシップ（PPP）



宮城、岩手、青森の太平洋沿岸を結ぶ三陸沿岸道路は、延長 359 km にわたる三陸の大動脈です。東日本大震災からの復興を効率良く進めるため、官と民がパートナーを組んで事業を行う PPP (Public Private Partnership) という手法が採用され、区間を 18 区間に分割して事業が進められました。弊社は、「吉浜釜石工区（吉浜釜石道路②・釜石道路⑥）」約 20km 区間の事業管理業務に参画し、当該区間は平成 31 年 3 月 9 日に供用開始し、業務を終えました。



H27.4.25



H31.3.27

吉浜 IC



H27.2.5



H31.3.28

唐丹第一高架橋

三陸沿岸道路（宮城県～岩手県） （国土交通省 南三陸国道事務所事業概要）

県・市との
協議（釜石市）



※PPPの業務内容について

発注者

法制度などにより
発注者の実施が必要な領域

- ・ 予算管理
- ・ 契約
- ・ 最終判断または指示 等

PPPチーム

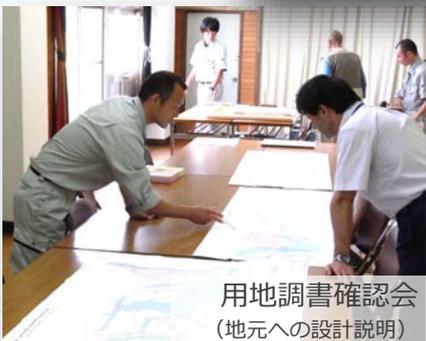
新たに民間での実施が
可能になった領域

- ・ 事業の進捗管理
- ・ 業務等工程管理
- ・ 関係機関との協議・調整
- ・ 用地取得計画調整 等

業務受注者

すでに民間へ
委託している領域

- ・ 測量業務
- ・ 調査業務(地質・環境等)
- ・ 積算業務
- ・ 用地調査業務 等



吉浜釜石工区 工事写真



吉浜釜石道路



釜石道路



釜石南 IC



釜石 JCT



関沢高架橋



吉浜釜石道路・釜石道路 開通式
(提供：南三陸国道事務所)

②吉浜釜石道路



(国土交通省 南三陸国道事務所 HP より)

⑥釜石道路



(国土交通省 南三陸国道事務所 HP より)

①鹿折川災害測量調査設計業務

震災当時



10年後



鹿折川河口から八幡橋上流 230mまで、3タイプの護岸を配置しています。
八幡橋下流は、高圧線の鉄塔や商業施設が近接していたため、直高7mの杭式擁壁構造としています。
【鋼矢板+コンクリートブロック3面張、特殊堤 設計延長 1.6km 堤防高6m】

②松岩漁港海岸保全施設調査測量設計業務

震災当時



10年後



地域の復興計画や漁港利用者のご意見を踏まえた上で、防潮堤の位置や堤防断面の決定、漁港の利用者のための坂路設計等を行いました。また、地盤が軟弱であったため、液状化対策の地盤改良を施しています。

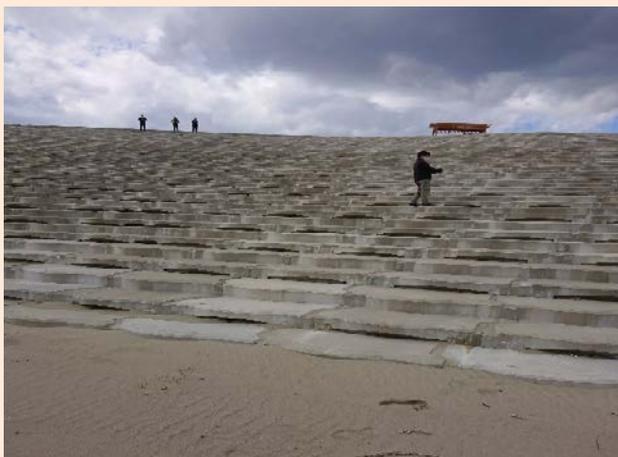
【鋼矢板+コンクリートブロック3面張り 設計延長 240m 堤防高 6.4m】

③中島地区海岸緑の防潮堤設計業務

震災当時



10年後



中島海岸は、津波により海浜がえぐられ堤防が海中に没していたため、波浪の影響を考慮して復旧位置を陸側に設定しました。また、防潮堤復旧断面に合わせた小泉海水浴場の再生に向け、観光拠点として駐車場や交流広場を設計しました。

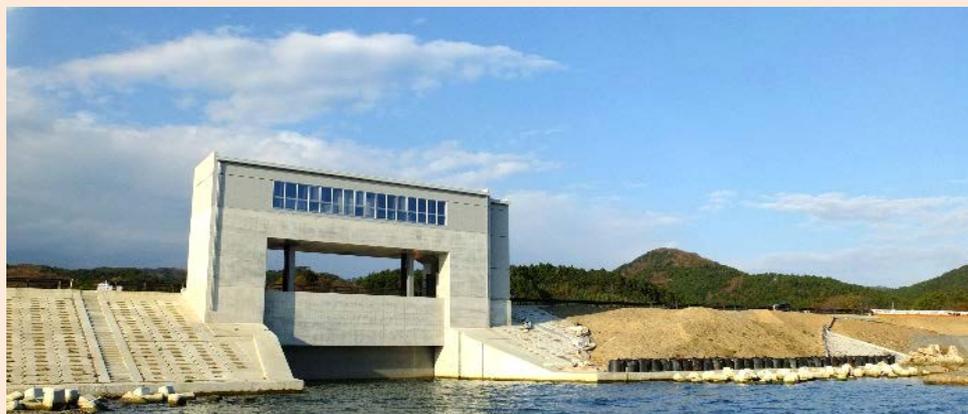
【コンクリートブロック3面張り 設計延長 1.4 km 堤防高 18m 離岸堤 450m】

④北上川下流月浜第二水門詳細設計業務

震災当時



10年後



月浜第二水門は、北上川左岸0.2 km付近に構築されていましたが、震災により大破したため、0.46 kmに新設されました。周辺景観との調和に配慮した外観や二相ステンレスのゲート等、様々な工夫を施しています。

【排水断面：幅15m×高さ6.2m 門柱高15m 引き上げ式ローラーゲート+浮体式転倒ゲート】

⑤船戸水門災害復旧事業調査設計業務

震災当時



10年後



津波により跡形もなく破壊された船戸水門の復旧設計を行いました。
船戸水門は、雄勝港の湾奥に設置されており、周辺には大改修された大原川や雄勝漁港の直壁防潮堤が整備されています。

⑥北上運河災害復旧調査設計業務

震災当時



10年後



北上運河は鳴瀬川河口左岸に合流する河川で、航空自衛隊松島基地の航空制限や文化財である野蒜築港跡の保全に配慮した設計を行っています。

【鋼矢板+コンクリートブロック3面張 設計延長 4.4 km 堤防高 4m】

⑦塩釜漁港災害復旧調査・設計業務

震災当時



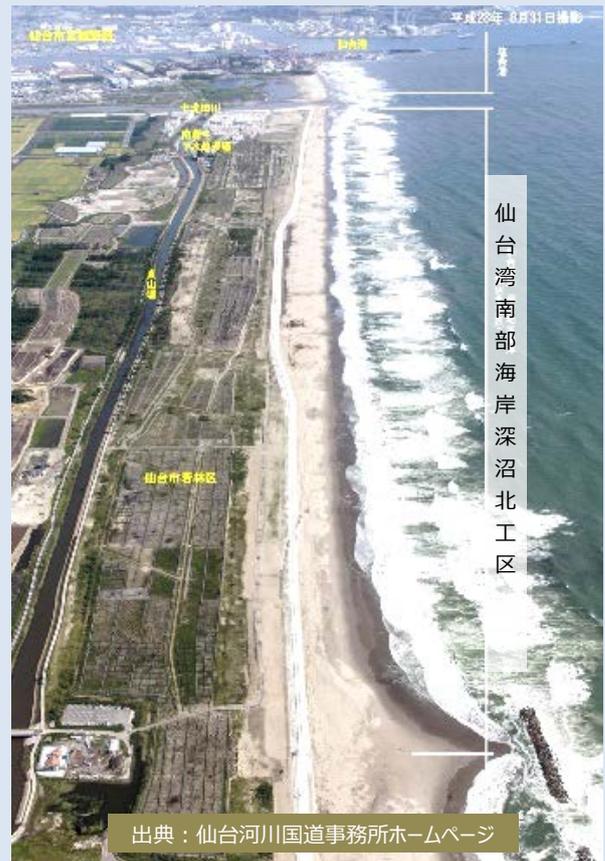
10年後



被災した岸壁等の漁港施設の復旧設計や堤防嵩上げに伴う周辺道路の嵩上げ設計、排水設計を行いました。また、埠頭東棧橋や魚市場棧橋の健全度評価や漁港復旧工事の施工管理も行っています。

⑧仙台湾南部海岸深沼北地区堤防設計業務

震災当時



仙台湾南部海岸深沼北工区

出典：仙台河川国道事務所ホームページ

10年後



景観に配慮した構造とするための各種検討や現地再現等を行いました。また、南蒲生浄化センターの放流樋管上に築堤するため、樋管の機能維持、復旧に配慮した防護工等の設計も行っています。

【コンクリート3面張 設計延長約3.9km 堤防高約5m】

⑨北貞山運河災害調査・設計業務

震災当時



10年後



北貞山運河は、名取川左岸河口に合流する河川で河口部に湿地帯（井戸浦）が広がっています。この良好な汽水域となっている井戸浦における水循環や環境に配慮した護岸や函渠の設計を行いました。

⑩県立都市公園災害調査測量設計業務（岩沼緑地）

震災当時



10年後



現ジュニパーク岩沼の北ブロック中央水路から東側9haのエリアにおける、被災調査や建築・電気施設を除く園内施設の設計を行いました。従前の公園機能の回復と共にスムーズな避難動線の確保や河川堤防との取合いに配慮し、管理棟やトイレの配置を含めた園内全体の施設レイアウトを検討しています。

⑪仙台湾南部海岸蒲崎地区堤防設計業務

震災当時



出典：仙台湾川国道事務所ホームページ

10年後



既設堤防の多くが流されず残っていたため、これを活用した設計としています。南端には、震災前に植えられていた松がかろうじて生き延びていたため、後世に残すような工夫をしています。

【コンクリート3面張 設計延長約4 km 堤防高約5m】

⑫仙台湾南部海岸樋門設計業務（一の沢川樋門）

震災当時



10年後



震災遺構：中浜小学校

山元地区の海岸堤防は、津波による浸食によって300mにおよぶ堤防が消失しました。一の沢樋門は、その被災箇所中央に設置された排水施設で、レベル2地震動や設計津波に耐えられる構造としています。

また、樋門に隣接するヘッドランドや坂元川河口の海岸堤防における軟弱地盤対策の設計も行っています。樋門の上流には、震災遺構として中浜小学校が残されています。

【□-B3.8m×^H2.0m、L=30.7m、電動ラック式ローラーゲート1門】

減災のための取り組み

“減災ポケット「結」プロジェクト事業支援”

東北大学災害科学国際研究所が推進する『減災ポケット「結」プロジェクト事業』への寄付を行うと共に、未来を担う子ども達に向けた減災教育の支援も行いました。

減災ポケット「結」プロジェクトとは？

東日本大震災の教訓を活かし、安全な社会を構築するための実践研究を行っている東北大学が、研究のみならず、減災意識を普及させるために展開しているプロジェクトです。

プロジェクトでは、東北大学災害科学国際研究所等が開発した“減災ポケット”が活用されており、小学校において、減災に関する出前講座が行なわれています。



小学校での出前講座

MCCの協力・活動

○東北大学基金への寄付

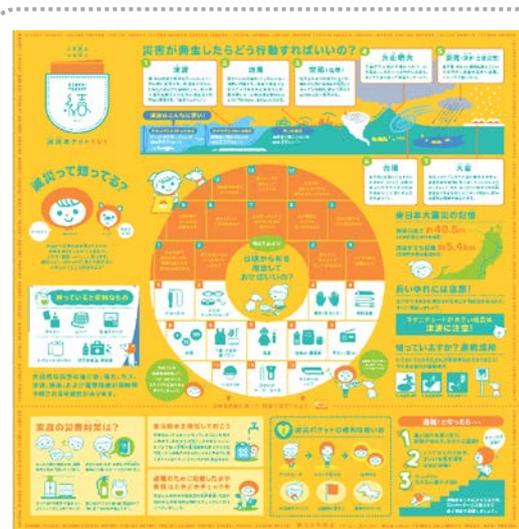
東北大学による防災・減災に資する研究のグローバルな展開の一環である「結」プロジェクトに対し、その充実と拡大を支援するため、東北大学基金への寄付を行いました。



東北大学にて撮影

○NPO 団体への出前講座開催支援

当社職員が所属する NPO 団体主催の出前講座等へ減災ポケットを提供し、減災教育に活用していただいています。



減災ポケット (ハンカチ)

(資料：東北大学基金パンフレット)

災害の知識等について、イラスト付きで情報が盛り込まれています。中央にはクイズと回答も書かれており、家族や友達と楽しみながら防災・減災の学習ができます。

減災ポケット「結」(ハンカチ)の配布実績

2017/3/17

No	利用主体 NPO名等	配付先	配付数 (枚)
1	NPO防災千葉	NPO防災千葉会員及び関連団体	130
2	ひょうご地域 防災サポート隊	兵庫県南淡路市立小学校生徒	200
3		兵庫県淡路市立小学校生徒	200
4	兵庫県阪神南県 民センター	尼崎閘門 防災展示室来場者	120
5	木曾川文化研究会	出前防災実験教室参加者	200
6	愛知県豊岡市	市立小学校生徒	160
7	(弊社職員)	自治体防災関係者	300
計			1,310



「NPO ひょうご地域防災サポート隊」
主催の減災授業への支援



「千葉県防災関係建設技術研修会」
での減災ポケット配布

編集後記

あれから10年、毎年3月に被災地で写真を撮り続けてきました。

初めは、長年仕事で携わっていた被災地で何が起きたのか、どうなってしまったのかを知りたいとの思いで現地に入りました。

しかし、そこで目にしたのは、想像をはるかに超えた厳しい現実でした。

震災前の街にあったあらゆる物が、原形を留めないまでに破壊され、柱や屋根、家財道具等で見渡す限り埋め尽くされた景色、その中でガレキを片付けたり、長い棒を持って何かを探す被災者、……。カメラを向ける事すら憚られました。

それでも写真を撮り続けたのは、震災直後から始まった膨大な量のガレキ撤去と処理、各所で始まった諸施設の修復工事、ボランティア団体等による炊き出しの光景、等々に先々の明るさを感じ、被災地が今後どう変わって行くかを部分的、断片的ではあっても記録し続け、それを周囲にお伝えしたいと思ったからです。

そのような思いで続けた10年間で、当社も深く関わってきた河川や道路、海岸・港湾施設等の強靱化事業は進展し、高台や嵩上げ地の整備も、地域差があるものの着実に進んだように見えます。

こうしたハード面での完成形がほぼ見えてきた10年を節目に、本写真集の発刊に区切りをつけさせて戴くことと致しました。

皆様からの、「基盤が整ったこれからがスタート」というお声を耳にしていながら心苦しいのですが、今後は、日々の業務に取り組む中で、微力ながら地域の発展に貢献して参りたいと考えています。

被災地におかれては今後も復旧・復興が順調に進み、以前のような落ち着いた日常と賑わいが一日も早く訪れることを、心より祈念しております。



荒浜記憶の鐘

MITSUI CONSULTANTS CO.,LTD.

三井共同建設コンサルタント株式会社 東北支社

〒980-0021 仙台市青葉区中央四丁目 10 番 3 号

仙台キャピタルタワー 3 階

TEL:022-225-0489 FAX:022-264-0994

URL:<http://www.mccnet.co.jp>

	住 所	TEL
本 社	〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目 11 番 1 号 ゲートシティ大崎ウエストタワー15 階	03-3495-1321
関東支社	〒330-0845 埼玉県さいたま市大宮区仲町二丁目 28 番 3 号 Mitsutaka Bldg 6 階	048-647-6009
中部支社	〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内三丁目 20 番 3 号 BPR プレイス久屋大通ビル 7 階	052-953-1080
関西支社	〒552-0007 大阪府大阪市港区弁天一丁目 2 番 1-900 号 大阪ベイトワーオフィス 9 階	06-6599-6011
九州支社	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東二丁目 14 番 1 号 スフィンクスセンター9 階	092-441-3872